**説教20231225マタイ1：18-25「インマヌエルの神」**

**クリスマスおめでとうございます。私たち一人ひとりを、深く深く、そして広く広く愛して下さるイエス様のお誕生日をこうして皆さんで集まって喜び合えますことを、大変うれしく思います。**

**又、今日は、聖書に出て来るマリアとヨセフと言う夫婦とも、一緒に神の御子イエス様のお誕生日をお祝いしてまいりましょう。**

**昨日の礼拝では、「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」ということでルカ福音書より、国民を救うためにお生まれになった、王としてのイエス様が語られましたが、今日は、家族を救うために来られたイエス様の話をします。**

**今の時代、家族の在り方や価値が、問い直されています。自分の父や母の時代に倣って、その父や母と同じように結婚をして、幸せな家庭を作り、自分たちの子どもを育んで、次の世代に希望を託す、と言った従来の価値観を、多くの人々が共有できる時代は終わりを告げています。**

**今の時代、自分の家族だけは、幸せな家庭で、次の世代への引継ぎもぬかりなく、何も問題はありません、と言う考え方は通用しなくなってきました。なぜなら、今では、そう言うことを達成できなかった御家族や、結婚したくても出来ない方々が多くおられる時代になったからです。**

**そして、そもそも、前の世代から引き継がれてきたこの常識的な幸せな家族像と言うのは、果たしていつの時代にも通用するような本物なのであろうか、と言う根本的な疑問が、今、私たちに問いかけられているように思います。**

**クリスマスと言う、御子イエス様がお生まれになった時代も、この神の子イエス様という、しるしが人々に与えられることによって、根本的にそれまでの家族の在り方や価値が変えられた時代でありました。**

**聖書をはじめて読んだ時、先ず、新約聖書の初めの箇所であるマタイ福音書の１章１節から読み始めた方も多いでしょう。その箇所はちょうど今日の聖書箇所の直前になります。**

**マタイ福音書1章 1節～**

**アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。**

**アブラハムはイサクをもうけ、イサクはヤコブを、ヤコブはユダとその兄弟たちを、**

**ユダはタマルによってペレツとゼラを、ペレツはヘツロンを、ヘツロンはアラムを、、**

**そこにはこんな風に延々と人の名前を書き連ねた系図が記されています。まあ、はじめて聖書を読む方が、この箇所を読んだだけで退屈になって、聖書の意味や面白さに気が付かないまま、聖書から遠ざかってしまうということは良くあることですが、それは大変残念な事です。**

**しかし、この系図に出て来ます、一つ一つの名前にはとても面白くて、神秘的な物語が込められています。例えば、ここに出て来るウリヤの妻と言うのは、ダビデが不倫をした相手ですし、ヒゼキヤと言う歴史上最も良い王様を設けた、アハズと言う父親は、最も悪い王として、歴史にその名を刻んでいます。**

**こんな風に、神さまの御業が悪い人にも良い人にもあまねく及んだわけですが、より詳しい話をお聞きになりたい方は、いつでも教会を訪ねて、聖書のお話をお聞きになって下さい。**

**そして、この系図と言うのが、イエスキリストの系図となっていることがとても大事です。一般的な家系図では、たとえば徳川家の系図でしたら、自分のご先祖様には徳川家康と言った偉大な人物がいた、などということを誇って、その人物をほめたたえるということになります。しかし、それは何物をも生み出すことがない偶像崇拝の一つです。**

**イエスキリストの系図が聖書に記されている理由は、イエスキリストをほめたたえつつ、同じようにキリストをほめたたえていたアブラハム、イサク、ヤコブの信仰を自分自身も見習って、その信仰を受け継いでいくということにあります。より近いところでいえば、自分の父や母がキリストを信仰していたならば、そのクリスチャンとしての信仰を、自分も見習って、その信仰を受け継いでいくということであります。**

**さて、今日の聖書箇所には、「母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった」と書いてあります。この様にして御子イエス様はお生まれになりましたが、ですから、イエス様の母親はマリアでありますが、父親は、ヨセフではなくて、父子聖霊なる神様なのです。イエス様の母親はマリアでありますが、父親はヨセフではない、ということもとても大切なことです。聖書の系図にはその通りのことが正確に記されています。「ヤコブはマリアの夫ヨセフをもうけた。このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった」と。**

**ヨセフは、この時、御子イエスの実の父親が自分ではないということを、はっきり知っていました。それで彼は、当時の社会の律法に倣って、妻「マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した」のでした。この時のヨセフの心境と言うのはどのようであったでしょうか。普通に考えれば、自分の実の子でない子を家族にすることには葛藤が伴うことでしょう。又、世間の目を恐れて、ひそかに縁を切ろうという思いも湧いてくるでしょう。**

**しかし、そういうヨセフに、神さまが現れて下さいました。「ダビデの子ヨセフよ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」この神のお告げは、与えられたものです。ですから、神から御言葉を与えられた者は、その言葉を受け取るか、或いは受け取らないかのどちらかしかないのです。例えば、神さまからこう言われているのに、ヨセフがイエスと言う名前以外の名前をその子に名付けると言った成り行きはありえないのです。ヨセフが出来る選択は、神の言葉を信じて受け入れるか、それとも信じないで受け入れないかの二者択一でした。**

**ヨセフはそれから神の言葉を信じて、「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」という御言葉を聞き、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、その子をイエスと名付けたのでした。**

**今日聖書箇所で、この家族のうちで起った、御子イエスのご降誕物語は、昨日の説教での様に、夜通し羊の群れの番をしていた羊飼いたちが、たちまち、主の栄光の光に照らしだされたという明るさや輝きは感じられません。**

**そこには家族内の辛くて暗い葛藤と言ったことが、如実に感じられます。そして、そんな辛くて暗い状況の中にこそ、神さまは来て下さったのでした。そして、神さまが来て下さっとは言っても、昨日の羊飼いたちの様に、たちまち、神の栄光の光に包まれ、喜び躍るという成り行きになっていないということも、又、神の救いの道行きとして、よくあることなのです。むしろ、たちまち神の救いに入れられて大喜びする、と言う成り行きのほうが珍しいことの様に思われます。神の救いの喜びを味わうには、それまでに、長い試練と準備の期間を伴うのが普通であります。**

**今日の説教題は、「インマヌエルの神」であります。インマヌエルの神と言うのは、ヘブライ語で、今日の聖書箇所に「神は我々と共に居られる」という様にちゃんとその翻訳された意味が記されています。**

**クリスマスの説教のテーマはほぼ、父子聖霊なる神が、御子イエスとして、私たちの処へと来て下さって、私たち一人ひとりの内に宿り、世の最後まで、共に居て下さるということに尽きますので、クリスマスにはいつもこの「インマヌエルの神」のことを語ることになります。あとは、聞く方々が、このインマヌエルの神の御子イエス様を信じて受け入れるかどうかの二つに一つなのです。**

**先日、児童養護施設で、子ども達にもわかるようにこの「インマヌエルの神」のことを語りました。今日の冒頭でも語りましたが、「私たち一人ひとりを、深く深く、そして広く広く愛して下さるイエス様のお誕生日をこうして皆さんで集まって喜び合えますことを、大変うれしく思います。」という私の実感がこもった言葉が効いたのか、何だか一人ひとりの子ども達の内に、御子イエス様が宿られて行ってるなあ、という喜ばしい思いを致しました。**

**神の救いの喜びを味わう前に人間が受ける試練と葛藤、、お一人お一人がインマヌエルの神イエス様を受け入れることに伴う試練や葛藤は、聖書の系図に出て来る、アブラハムと、その子供であるイサクも味わったことです。次の話は旧約聖書に出て来る有名な話ですのでご存知の方も多いかと思います。或る時、アブラハムは、神様に次の様に命じられます。「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」そしてアブラハムは神に従って、愛する独り子イサクを泣く泣く手にかけようとするのですが、その時、神の声が「アブラハム、アブラハム」と呼びかけ「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった。」と言いました。そしてアブラハムはイサクを手にかけることを免れたのでした。**

**この父なる神がアブラハムにお与えになった試練や葛藤は、今の言葉でいえば、親子関係における執着的な愛情に対する戒めと、正しい愛情に向かわせるための出来事であったと言えるでしょう。**

**御子イエスは、私たち人間の罪の為に、十字架に付けられ、いけにえとしてられました。しかし、父なる神は、御子イエスを、全ての人のための系図の初めにある方として復活させられ、全ての人をイエスを信じる信仰へと導いて、イエスをほめたたえる者たちとして下さいます。**

**ここに血のつながりを超えた、隣人愛による、天の国に続く、まことの平和が、この地にも実現する、イエスキリストの系図に連なる道が示されています。**

**聖書には、「作り話や切りのない系図に心を奪われたりしないように」とも記されています。私たちは、信仰によって、イエスキリストの救いの系図に連なるか、それとも信じないかのどちらかです。どうか、この説教や、教会での様々な出来事、或いはご家庭においてインマヌエルの神が働きかけて下さる一つ一つの出来事によって、益々私たち一人ひとりのうちに深く深く、そして広く広く、イエスキリストの信仰が与えられていきますようお祈りします。**